

# 世界はオブジェクトの 海に浮かぶ

.NET Framework  
で楽しむ  
オブジェクト指向

第19回

Tech・Ed 2006  
回顧録& Turbo

επιστημη  
えびすてーめー

## Tech・Edの 季節です

8月のお盆からちょっとズラして夏休みをとりました。今年の夏は京都です。清水寺、金閣寺、銀閣寺、平等院鳳凰堂と京都観光のゴールデンコースを回ってきました。2泊3日の飯はすべて和食で通すココロミにも挑戦。やっぱニッポンジンですねえ、毎食和食で飽きるということがありません。なんだかとっても心安らぐ夏休みを過ごすことができました（その直後に修羅場が待ち構えていたのですが）。

レベル >>> Level

1 2 3 4 5

言語 >>> Language

・C#

ツール >>> Tool

・Visual Studio 2005 Professional

で、夏休みが終わって次の週はマイクロソフト主催の国内最大級のカンファレンス「Tech・Ed 2006 Yokohama」が8月29日から4日間。お仕事のヒントや連載ネタ漁り、そしてなにより日頃なにかとご無沙汰気味の方々とお会いするのが楽しみで4日間フル参加しました。パシフィック横浜のTech・Ed会場内に毎回、“部室”と呼ばれる部屋が用意されます。Microsoft MVPの溜まり場です。各地から集まったMVPはこの“部室”を拠点とし、セミナー参加/情報収集のために各所に散っていきます。その世界では名の通った酔狂な連中がたむろする異次元空間となるわけっす。この部屋で交わされる会話のアップさ加減はとてもここで話をするわけにはいきません……。

## Tech・Edその1 .NET Framework 3.0

今回のTech・Ed、ウリのひとつは

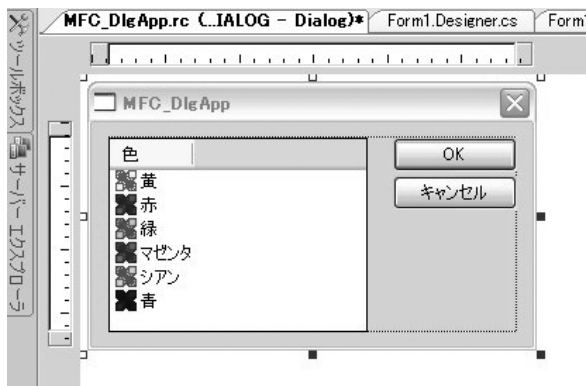
やはりWindows Vistaでしょうか。僕的に面白そうなのは、.NET Framework 3.0絡み、特にWindows Presentation Foundation (WPF) かな。WPFではユーザーインターフェイス部（見てくれ）とアプリケーションのコアロジック（実体）との完全分離を目論んでいます。そうすることで画面のデザイナーとアプリケーション開発者が並行/独立して作業できるメリットが生まれます。さらに画面のデザインは通常のフォームとWebブラウザ内とでまったく同じものが使えます。それを実現するために編み出されたのがXAML。各コントロールのレイアウトやプロパティなどをXMLで記述したものです。クライアント側ではレンダラエンジンがこのXAMLを解釈し“見てくれ”を構築するわけね。で、レンダラエンジンがWebブラウザの中で動けばWebアプリのUIとなるわけ。そしてこのとき、“見てくれ”と“実体”との間で交わされる通信にもXMLが使われます。“見てくれ”と

“実体”の間をXML化されたデータが飛び交います。ここに使われるのがWindows Communication Foundation (WCF)。これも.NET Framework 3.0の構成要素のひとつです。“見てくれ”と“実体”とがデータ飛ばしあってアプリケーションを実現するってことは、まんまAjaxですねえ。

.NET Framework 3.0解説セミナーが終わり、会場の外で煙草ふかしながらぼんやりと考えていました。これってちょっとした温故知新なんじゃなからか、と。

Windows 3.1 (いやそれ以前) から、Windowsアプリケーションでの画面のデザインは“リソース”が用いられてきました。VC++でWindowsアプリケーションを作る方はご存知でしょうが、たとえばダイアログ (図1) をデザインするとリソースファイルと呼ばれるテキストファイル (リスト1) が作られます。IDE上の画面デザイナーは僕らがフォーム上に落としたコントロールの位置や属性をテキストに変換してファイルに書き込んでいくわけです。コードがビルドされる時、リソースコンパイ

図1：たとえばこんなダイアログ



リスト1：図1のダイアログのリソースファイル (抜粋)

```
IDD_MFC_DLGAPP_DIALOG DIALOGEX 0, 0, 282, 200
STYLE DS_SETFONT | DS_MODALFRAME | WS_POPUP | WS_VISIBLE | WS_CAPTION | WS_SYSMENU
EXSTYLE WS_EX_APPWINDOW
CAPTION "MFC_DlgApp"
FONT 9, "MS UI Gothic", 0, 0, 0x1
BEGIN
  DEFPUSHBUTTON "OK",IDOK,225,7,50,16
  PUSHBUTTON "キャンセル",IDCANCEL,225,25,50,16
  CONTROL "",IDC_LIST1,"SysListView32",LVS_REPORT | LVS_ALIGNLEFT | WS_BORDER | WS_TABSTOP,7,7,215,186
END
```

ラがリソースファイルをバイナリに変換して実行ファイル (.exe) に埋め込むことで“見てくれ”が“実体”と密結合するんですね。

VBやC#では“見てくれ”の作り方が変わりました。リソースファイルに頼らずに、コントロールオブジェクトを生成し属性を設定してフォームに追加する“コード”を生成します。

'メモ: 以下のプロシージャはWindows フォームデザイナーが必要です。  
'Windows フォームデザイナーを使用して変更できます。  
'コードエディタを使って変更しないでください。

という意味深なコメントの付けられたInitializeComponent() という名のコードです。実行時にこのメソッドに火がつくとそこに記された通りにコントロールが生成され属性が設定されてフォームに貼り付けられます。

そして.NET Framework 3.0をサポートするWindows Vistaでの.NETアプリケーションでは言わば先祖がえり、戦略は旧来の「リソースファイルによる見てくれ構築」と基本的に同じです。違いはベタなテキスト表現から、より柔軟なXMLに改めたこと。それと実行ファイルに埋め込む「密結合」からXMLによる「疎結合」への進化。今となっては枯れた要素技術となったXMLが古い酒を新しい皮袋に注ぎこんでくれました。

#### 教訓

枯れた技術は大事に使い！  
腐った技術はとっとと捨てろ！

ですね。